

【親の老いと子の将来に備える】茨城県取手市で障がい者家族向けシンポジウムを開催

～なかなか言えない「お金の不安」を地域で語る 10 月 11 日開催、参加無料～



KINOPPI 株式会社（所在地：茨城県取手市、代表取締役：紀林）が今年 8 月に設立した一般社団法人 親なきあとのサポート協会（所在地：茨城県取手市）は、障がいのある子どもを持つ親が抱える「親なきあと」の不安に向き合うシンポジウムを、10 月 11 日（土）取手ウェルネスプラザで開催します。8050 問題（80 代の親が 50 代の子の生活を支える社会課題）が深刻化するなか、「親の老い」と「子の将来」に備える実践的な知恵を、住まい・仕事・お金の専門家とともに考えます。

「自分が亡くなったあと、子どもの生活はどうなるのか」

内閣府調査（2019 年）では、40 歳以上のひきこもり状態の人が全国で約 61 万人、そのうち 50 代は 20 万人以上にのぼります。いわゆる 8050 問題（高齢の親が中高年の子どもを支える状況）は社会的にも深刻化しており、障がい者の高齢化も進むなかで「親なきあと」への不安は年々大きくなっています。とりわけ、障がいのある子を育てる親にとって、住まいや仕事と並んで特に不安が大きいのが“お金”の問題です。

相続・信託・将来設計といった制度は存在するものの複雑で分かりにくく、相談先も限られています。さらに住まいや就労の選択肢も十分とは言えず、包括的な支援体制がまだ整っていません。

こうした現状を受け、今回のシンポジウムでは「親なきあと」に直結する住まい・仕事・お金の 3 つのテーマを取り上げます。制度の説明にとどまらず、地域で支援に取り組む専門家たちがリアルな事例や現場の工夫を紹介し、「今からできる備え」を具体的に考える場となります。

【“親なきあと”支援シンポジウム】開催概要

日時：2025 年 10 月 11 日(土) 14:00~16:30

会場：取手ウェルネスプラザ(茨城県取手市新町 2 丁目 5-25)

アクセス：JR 常磐線 取手駅 より徒歩約 3 分

対象：障がいのあるお子さん・家族の「親なきあと」に不安を感じている方、支援者、教育・福祉関係者など

参加費：無料（事前申込制）

申込ページ：<https://kinoppi.co.jp/news/1043/>（申込〆切 9/30）

主催：一般社団法人 親なきあとのサポート協会

プログラム：

第一部：“親がいるうち”に考える、お金とくらし

障がいのある家族の将来に向けた「お金」の備えを支援するため、「親なきあとのお金の相談窓口 北関東・茨城 事務局」が始動。財産管理や相続、信託の考え方を解説するとともに、実際のケースを元に「生活にかかるお金」の収支シミュレーションを通じて、住まい・仕事の選択肢をどう設計するかを具体的に解説します。

第二部：はたらくも住まうもあきらめない自立支援〈パネルディスカッション〉

暮らしを支える「お金・住まい・仕事」。現場で支援に携わる専門家たちが、制度の“すきま”で起こるリアルな困りごとを共有し、分野を越えて支援をつなぐ方法を語ります。

「親元を離れる適切なタイミングは？」「50 歳を超えても同居のまま…今からできる支援とは？」「親が倒れた！緊急時に起こる支援の断絶と備え」など具体的なテーマに沿ってパネルディスカッション形式で連携のヒントを探ります。

登壇者：

柳澤 裕香(一般社団法人親なきあとのサポート協会事務局長 | 「親なきあと」財産プランナー®)

砂長 美ん 氏(一般社団法人ありがとうショップ 代表)

小林 盛穂 氏(障がい者グループホーム『いまここ』代表 | 株式会社ストーリー代表)

梶野 雅章 氏(一般社団法人親なきあと財産管理サポート協会 代表理事)

紀 林 (一般社団法人親なきあとのサポート協会 代表理事 | KINOPPI 株式会社 代表)